

岡田宮

宝永4年(1707) 貝原益軒書

第54号

平成24年11月吉日

発行 岡田宮社務所

郵便番号 806-0063

北九州市八幡西区岡田町1番1号

電話 (093) 621-1898

FAX (093) 621-5330

ホームページ <http://www.okadagu.jp/>

Eメール okadajinja@jcom.home.ne.jp

ご奉賛のお願い

岡田神社 御改築第三期工事 — 25年に一度の御奉賛 —

この世に生きた証として、古郷に御名前を残しませんか



事業内容

- 境内拡張工事費 七千万円**
社殿南側を百三十坪埋め立て社殿前を広くします
- 神門移設整備費 一千万円**
境内拡張工事に伴い神門を八間南に移設します
- 廻廊増設工事費 一千万円**
神門の左右に廻廊を増設します
- 付帯工事費 一千万円**
奉賛者記念碑、設計費用、記念碑・灯籠や樹木の移設をします

奉賛金額 一口 一万円(何口でも結構です)

奉賛者に対する顕彰

- 御奉賛名は奉加帳に記帳し当神社にて保存します
- 三口以上の奉賛者は記念碑に名前を刻みます
- 五口以上の奉賛者は竣工奉告祭にご招待します

(平成二十七年十月予定)

目次

ご奉賛のお願い	2	郷土地名考	54	3
第十八回 岡田神社書道展	2	年末年始の行事案内		4
神社なぜなぜ問答	54	平成25年の厄年		4

ご奉賛のお願い

各位

謹啓 皆様方には常日頃より岡田神社の神々の御神縁浅からず、御高配を賜り厚く御礼申しあげます。

さて、当神社も毎二十五年の式年祭を迎える時期となり、ここ数年來神社関係者一同数多くの協議を重ねて参りました結果、奉賛会を結成いたしましたして、別記の通り御改築第二期工事を行うことになりました。当社は古代に熊族が祖神を奉斎した地主神で「岡田宮」と称し「神武天皇日向の国より東征の途次岡田宮に二年留まり給う」と古事記に記載があり、古来より北九州における交通の要所に位置しており皇室公家・武家藩主等の崇敬高く、社嶺十八所末寺九坊と栄えた歴史ある神社です。

昭和六十三年に御改築工事を計画し、平成二年には第一期工事として多くの方の御奉賛をいただき、神殿幣殿屋根の葺き替え事業と拝殿及び社務所を新築しました。平成四年には第二期工事として参道改築工事をいたしました。その結果、御神威益々高くなり参拝者は年々増加し、今では北九州を代表する神社になってきました。お陰様で正月等の諸行事には参詣者が溢れ、年間参拝者は十万人を超えるようになり、境内が大変手狭になってまいりましたので、予定通り第三期工事として境内整備を行い参拝者の利便を図り、岡田神社の御神威を更に高める為に、今事業を完遂したいと思っております。氏子崇敬者の皆様方には、本事業の完遂に特別の御理解と厚い御奉賛をお願いします。 謹白

岡田神社宮司 波多野直之
神社責任役員 梶原章旺 菊竹常吉

森 敏明 望月康治
佐々木泉

第十八回 岡田神社書道展

会期 平成24年7月23日(月) ~29日(日)
表彰式 平成24年7月29日(日)
総出品点数 758点

岡田宮賞

- 小1 山下 雛
- 小2 泉 早蘭
- 小3 藤田 美咲
- 小4 武田絵美里
- 小5 鞍成 駿
- 小6 櫻井 里美
- 中1 吉原 穂南
- 中2 福岡 瑚都

総代会長賞

- 小2 有岡 優衣
- 小3 浅井 結子
- 小4 幸 愛実
- 小5 彌勒 暉仁
- 小6 大淵 綺奈
- 中1 井上 優実
- 中2 梅崎 彩華
- 中3 江口 優花

特選

- 小1 隈部 千夏
- 小2 筒井 友海
- 小3 三嶋 千恵
- 小4 保田 結衣
- 小5 鶴田 真唯
- 小6 石黒 愛
- 小6 梅野 太陸
- 小6 重松野々葉
- 小6 河村 温
- 小6 中村麻梨奈
- 小6 山崎 悠花
- 小6 石田 裕樹
- 小6 島本 茉由
- 小6 上田 花恋
- 小6 松岡 愛美
- 小6 徳永 胡桃
- 小6 寺野 理雅
- 小6 武本 理来
- 小6 高村 陽笑
- 小6 長濱 実央
- 小6 鞍成 琴音
- 小6 北川 楓弥
- 小6 植本 優香
- 小6 伊波 恵伶
- 小6 池田 穂香
- 小6 古川 雛子
- 小6 向井 美月
- 小6 篠崎 莉奈
- 小6 吉田 妃穂
- 小6 吉原 希美
- 小6 豊岡 愛理
- 小6 松本 玲佳
- 小6 藤田 真帆
- 小6 真鍋那奈子
- 小6 酒見 奈央
- 小6 井上 実結
- 小6 森 未奈
- 小6 東 茜
- 小6 兵頭 未奈
- 小6 古賀 千晴
- 小6 青木 菜緒
- 小6 中島 彩香
- 小6 藤田 裕紀
- 小6 長迫 茉奈
- 小6 福永美菜子
- 小6 佐々木晴香
- 小6 戸畑 佳苗
- 小6 合屋 侑華
- 小6 古橋 章子
- 小6 坂口 真凜
- 小6 筒井万耶子
- 小6 梁井 恵太
- 小6 福永萌愛子
- 小6 小田 翔子
- 小6 森 美南
- 小6 東 未奈
- 小6 兵頭 茜
- 小6 古賀 千晴
- 小6 青木 菜緒
- 小6 中島 彩香
- 小6 藤田 裕紀
- 小6 長迫 茉奈
- 小6 福永美菜子
- 小6 佐々木晴香
- 小6 戸畑 佳苗
- 小6 合屋 侑華
- 小6 古橋 章子
- 小6 坂口 真凜
- 小6 筒井万耶子
- 小6 梁井 恵太
- 小6 福永萌愛子
- 小6 小田 翔子
- 小6 森 美南
- 小6 東 未奈
- 小6 兵頭 茜
- 小6 古賀 千晴
- 小6 青木 菜緒
- 小6 中島 彩香
- 小6 藤田 裕紀
- 小6 長迫 茉奈
- 小6 福永美菜子
- 小6 佐々木晴香
- 小6 戸畑 佳苗
- 小6 合屋 侑華
- 小6 古橋 章子
- 小6 坂口 真凜
- 小6 筒井万耶子



神社 なぜ 問答

(その54)



玉串の

意味について 教えて下さい。

玉串は神前にお供えするものとして、米・酒・魚・野菜・果物・塩・水等の神饌と同様の意味があると考えられています。しかし、神饌と異なる点は、玉串拝礼という形で自らの気持ちをこめて供え、お参りをするということですので。勿論、神饌も注意して選び、心をこめてお供えをしますが、玉串は祭典の中で捧げて拝礼することから、格別な意味を有するものであることが分かります。

『神社祭式同行事作法解説』（神社本庁編）では玉串を捧げることを「玉串は神に敬意を表し、且つ神威を受けるために祈念をこめて捧げるもの

である」と説明しています。

玉串の由来は、神籬（ひもろぎ）とも関連して『古事記』の天の岩屋（あまのいわや）隠れの神話に求められるものといわれています。すなわち天照大御神の岩屋隠れの際に、神々がおこなった祀りでは真神に玉や鏡などをかけて、天照大御神の御を仰いだことが記されています。

その語源には幾つかの説があり、本居宣長（もとおりのみなが）は、その名称の由来を神前に手向けるため「手向串（たむけぐし）」とし、供物的な意味を有するものと解しています。また、平田篤胤（ひらたあつたね）は、本来は木竹（串）に玉を着けたものであったために「玉串」と称したと述べています。このほか、六人部是香（むとべよしか）は真神が神霊の宿ります料として、「霊串（たまぐし）」の意があるなどとしています。

こうしたことから玉串は神籬と同様に神霊を迎える依代であり、また玉串を捧げて祈る人の気持ちがおめられることにより、祀られる神と祀る人との霊性を合わせる仲立ちとしての役割を果たす供物であるということができるとは言いにくいでしょう。

郷土地名考

54

中井

合成地名や願望地名は、字面だけで判断すると誤解を生み易い。小倉北区足原は一八七〇明治二十年大島足立、黒原、熊本を合併、戸数の多い足立、黒原から一字づつ取って足原とした。芦の繁った原だったからアシハラというのがあるがそうではない。

中井も合成地名、同じ年に中原村と井掘村が合併して新村となった。中原は企救郡誌に「西は筑前国に境し両国俱に此地名在り。按ずるに両国の中の原と云う事なるべし」としている。

一五市合併後、住居表示が行われるまで小倉側にも戸畑側にも中原があった。住居表示後、中原は戸畑区だけになり、中井は小倉北区と区分けされた。井掘は水利の便が悪く井戸を掘ったからと、これは字義通りの解釈になっっている。

戦前まで中井、中原の鹿児島本線北側は松原の続く海水浴場だった。キンツリに海水豆をぶら下げて泳いだものだが、もはや跡形もない工場地帯。六十九年、産業廃棄物の大気汚染による中原ゼンソクに抗議する住民運動が起こった。



スタジオカラーズ
STUDIO COLORS
produced by 写真写真

北九州市八幡西区岡田町1-44
TEL 093-621-2080

■営業時間 10:00~17:00
■定休日 水曜日

撮影衣装・着付・ヘアメイク無料

¥10,500~

(四切1枚・台紙付)

七五三お出かけレンタル衣装

¥3,150~

(お一人様)

新作ブランド衣装など多数取り揃えております

年末年始の行事案内

●大祓

十二月三十一日

大祓とは、半年間の罪穢を祓い、清々しい心となって各自の勤めに励み一家の幸福を増進せんとする意義深い行事です。

形式に住所、氏名、年令を書きかたし身体をなで息を三度吹き掛け初穂料(お思召し)と共に袋に納めて十二月三十一日までに町内の神社総代か岡田宮社務所迄お届け下さい。

●歳日(祭)

一月一日

新しい年をお祝いし、今年も良い年であるようにとお願いする神事。午前〇時より、恒例の「福餅」を先着順で五百個配ります。

●開運福引き

一月一日〜三日

一枚五百円でハズレなし。一等は羽根ぶとんなどが当たります。新年の運だめしにどうぞ。

●どんど焼祭

一月十四日(月・成人の日)

古くなったメ縄、門松等を焼納する神事。地元の有志による餅つき、餅まき、黒崎祇園太鼓、神酒接待、ぜんざい等の諸行事が午前中に奉納されます。

平成25年の八方除

五黄土星の方

生年	年齢(数え年)
昭和七年	八十二歳
昭和十六年	七十三歳
昭和二十五年	六十四歳
昭和三十四年	五十五歳
昭和四十二年	四十六歳
昭和五十一年	三十七歳
昭和六十一年	二十八歳
平成七年	十九歳
平成十六年	十歳

平成二十五年の厄年

(年齢は数え年)

厄年(男)

- 二十四才 前厄 平成二年生
- 二十五才 大厄 平成元年生
- 二十六才 後厄 昭和六十三年生
- 四十一才 前厄 四十八年生
- 四十二才 大厄 四十七年生
- 四十三才 後厄 四十六年生
- 六十才 前厄 二十九年生
- 六十一才 大厄 二十八年生
- 六十二才 後厄 二十七年生

厄年(女)

- 十八才 前厄 平成八年生
- 十九才 大厄 七年生
- 二十才 後厄 六年生
- 三十二才 前厄 昭和五十七年生
- 三十三才 大厄 五十六年生
- 三十四才 後厄 五十五年生
- 三十六才 前厄 五十三年生
- 三十七才 大厄 五十二年生
- 三十八才 後厄 五十一年生

◆厄年大祭 二月節分日

巫女奉仕者募集

大神様のお側近くで巫女として仕え、結婚式やお神礼やお守りをお授けする女性奉仕者を募集しています。神様に仕える重要なお務めであり、貴重な体験になるかと思えます。

ご希望の方は神社社務所
電話(621)一八九八
までお問い合わせ下さい。

奉仕資格 高校生以上

未婚の方

※書類審査・面接が有ります。



できれば髪の長い方希望
茶髪不可(程度によります)